

## 第6回 (仮称)練馬区地域コミュニティ活性化プログラム検討懇談会 議事概要

### 《日時・場所》

- 1 平成23年10月6日 午後6時～午後8時
- 2 場所 練馬区役所本庁舎9階 入札室

### 《次第》

- 1 開会
- 2 第5回懇談会の議事概要
- 3 議題  
(1) 検討報告・提言の構成について
- 4 その他

### 《出席者》

大垣喜久江委員、岡田尚子委員、小川善昭委員、小美濃千鶴子委員、加藤政春委員、鈴木恭一郎委員、玉井弘子委員、玉野和志委員、田村哲明委員、戸田了達委員、原秀年委員、樋口謙次委員、平田稔委員、増田時枝委員、森本陽子委員

(区出席者) 区民生活事業本部長、産業地域振興部長

(事務局) 地域振興課職員 5名

(傍聴者) 1名

## 1 開会

座長

- ・第6回地域コミュニティ活性化プログラム検討懇談会を開催する。

## 2 第6回懇談会の議事概要

座長

- ・事務局より、第5回懇談会議事概要について、事務局から確認をお願いする。

事務局

- ・第5回懇談会議事概要について、各委員には事前に送付させていただいた。現時点で修正などのご意見はいただけていないが、加筆・修正等があればお出しいただきたい。
- ・何もなければ、今後、区のホームページで公開していく。

座長

- ・特に意見等がないので、第5回懇談会議事録については、区のホームページでも公開していく。

## 3 議題

### (1) 検討報告・提言の構成について

座長

- ・懇談会としての提言をまとめる段階になってきた。これまでの懇談会で議論された中から、重要だと思われる論点を整理し、それに沿って提言を行うため、私と事務局で提言の構成案を作成した。これまで議論した内容に基づいて作成したが、抜けている部分や修正する部分などがあれば、ご意見をいただき、おおまかな合意を得られれば取りまとめに入っていきたい。まずは事務局より資料について説明をお願いする。

事務局

- 資料1 懇談会の「検討報告・提言の構成(案)」について説明

座長

- ・第2章の地域コミュニティの活性化に向けての「2 地域活動団体同士が連携を進めるための仕組みづくり」、「3 相談役・調整役(コーディネーター)の確保」、「4 参加しやすい環境づくり」の部分は、本日の会議の後半でも議論していただく。
- ・これまでの議論に基づき「報告書の骨子(案)」をまとめたので、重要な論点や抜けている部分がないかなどご意見をいただきたい。その上で前回懇談会の傍聴者のご意見も紹介しながら、参加したいがしていない方への働きかけなどについてご意見をいただきたい。まずは「報告書の骨子(案)」についてご意見をいただきたい。
- ・「はじめに」では現状と地域コミュニティが活性化している状態とはどのような状態のかなど、懇談会の提言を整理する上での前提条件について記載している。第1章は活動団体の現状と課題について整理し、その上で、団体同士の連携について触れ、最後に近

隣関係の現状などについて記載している。そして、第2章では提言に当たる部分としていくつかの論点を挙げている。全体の構成についてはこのような形で良いか。

- 意見なし

- ・ それでは、その他に気づいたことなどがあればご発言いただきたい。

R委員

- ・ 資料を拝見したが、やはりすごく重たいテーマだと改めて感じた。現状分析については押さえていると思うが、これから何をどうするのかという部分の中身が薄いし、ボリュームも足りない気がしている。そこを議論するには、もう少し現状分析を行い、時間を掛けていかないと難しいと思う。それにしても、今後の方策の部分がこのままでは、次のアクションにつなげていくのが難しいのではないかという印象である。
- ・ コーディネーターの配置については一つの方策だと思う。しかし、それ以前に地域への関心が薄い人が増えている。関心を高めるにはどうするか、自分だけではなく、向こう三軒両隣ということが個々の人の活動や価値観の中に入るということがどのようなことなのか、大人になってからはなかなかピンとこない、小さいころからの公の教育が必要であり、仲間を含め近所との関わり方についてどのように教育し、意識させていくか、長いテーマではあるが大切だと思う。そのようにしないとなかなか地域への関心、意識を高めることにつながらず、底辺は動かないように思う。小さい頃からの意識の醸成について将来に向けて「第2章 地域コミュニティの活性化に向けて」の中に組み込んで欲しい。

座長

- ・ 今のご意見は第2章の提言の中に、もう少し具体的で、スパンの長い提言があっても良いのではないかと意見だと思う。今の意見も含め、第2章の中身については、本日の後半に議論してもらおう。
- ・ 第1章では、町会・自治会や他の既存団体について記載している。この辺りの内容については反映されているか、ご意見があればお出しいただきたい。

- 意見なし

座長

- ・ R委員の発言にあった、子どもたちの教育の部分で地域とのつながりをどのように扱っていくかということについて、これまであまり議論をして来なかった。PTAの方々などは、地域とのつながりを子どもたちが意識できるような取組みを大事に思っているのか、また、学校では何かそうした取組みを意識しているのか、意見があれば伺いたい。

H委員

- ・ 意識はしている。他の学校の状況は分らないが、私達の学校では、集団登下校がいつでもできるように、小さな地区ごとにまとまっている。同じ地区に住んでいる親や子どもがお互いに顔見知りでないとか何かあった際に対応できないため、世話人の方が4月の段階で顔合わせをし、みんなで一緒に学校に行って帰って来るということを、去年から取

り組んでいる。地域によっては、地区ごとが小さな子ども会のようなものを作り、お祭りなどしているという話も聞いている。保護者は身近な地域でつながることの大切さを感じている。

- ・その一方で、学校教育の中では知らない人には挨拶しない、親がいない時に玄関のチャイムが鳴っても居ないふりをする事といった安全指導が行われている。人を信頼することから教育を始めなければならないのではないかと言ったことがあるが、警察や学校は、安全第一であるということであった。地域のつながりとは矛盾した話であり、残念に思っている。

J 委員

- ・学校応援団では、子どもたちが学校関係者だけでなく、地域のお年寄りをはじめ、幅広い年代の人達と接することができるよう意識してスタッフの募集を行っている。また、春日町ではお年寄りの方が見守り隊という活動をしており、登下校の時間帯に各要所に立ってもらっている。その活動によって、ピンポイントではあるが、保護者やお年寄りの方々との交流が生まれている。

座長

- ・地区ごとの顔合せという話について、最近始まったということを知りて少し驚いた。割とどこでも取組んでいると思っていた。学校が地域の人と顔を合わせる範囲と町会の範囲がずれてきているのか。かつては、夏休みのラジオ体操などは、町会の子ども会にあたるようなところが実施し、親も子も顔見知りになっていたというのが普通だった。ところが、いつの間にか学校と町会の範囲がずれてきているようだが、練馬ではどのような状態か。

B 委員

- ・私の地域では、地域の人が学校の行事に参加するなど関わる機会が多いと思う。例えば、学校では、地域の人も参加して、大根の種蒔きから収穫までを行っている。
- ・学校に来ているPTAの方は地域との関わりがあるので良いが、来ない人は関わりがないので難しい。学校に来ない方は町会にもなかなか入らない。仕事の関係で参加できない部分もあると思うが、そうした方々が増えていると思う。

座長

- ・子どものいない世帯も増えており、単身の世帯もあるので、そのあたりの状況も変わってきている。

G 委員

- ・私が関わっていた青少年育成地区委員会では、5、6年前までは飯盒炊さんなどで、飯能まで川遊びに500名くらいの子どもの連れて行っていた。最近では、指導者の高齢化や、保護者が川の事故など安全面で不安があるということから、学校の校庭で飯盒炊さんを行っているようである。昔は河原に行って、大きい子どもが小さい子どもの面倒を見るなど、練馬区では盛んに行われてきた。今は、盛んと言える状態では無くなってき

ており、寂しく感じる。

- ・また、地域でお年寄りが毎日子どもに挨拶をしていたら、保護者がその人のことを怪しい人と思い、子どもに挨拶を返さないように伝えていたということがあった。そうした基本的なことから直していかないと、プログラムができて難しいと思う。

#### C委員

- ・商店会でも同じようなことが起きている。商店会では、学校やPTAからの依頼を受けて、登下校時の見守りに協力し、子どもたちに声掛けも行っている。しかし、声をかけられた子ども達からは、何の反応もない。
- ・また、登下校時の緊急避難場所として、商店会にひまわり110番のステッカーを貼っているが、このような状況の中で、有効に機能するのか疑問に思うことがある。
- ・なお、ラジオ体操について、昔は子ども会があったが今はないと思う。各町会ではやっているのが現状である。

#### 座長

- ・練馬区は子ども自体が減っているのか。

#### H委員

- ・地域ごとのばらつきはあると思うが、おそらく区全体では微増だと思う。

#### 座長

- ・決して少子化が進んで盛んで無くなっているのではなく、昔はある程度の信頼関係があり、少々怪我をしても当たり前という意識だったが、最近では、怪我をする可能性があるなら、参加させない方が良いという意識になってきた。そのような変化が大きくなってきたということか。

#### G委員

- ・以前は、高齢者が各学校に出向き、子ども達にお手玉や竹とんぼの作り方を教えるなどの交流をしていたが、担当の先生が転勤されたら無くなってしまった。また、学校が、一人暮らしの高齢者を対象に給食に招き、子ども達と一緒に給食を食べる事業もあったが、予算の都合で無くなってしまった。そういうことも、つながりが無くなる要因の一つである。

#### E委員

- ・資料1の「2 地域コミュニティが活性化している状態」の(1)と(2)が基本だと思う。世代によってそれぞれコミュニティを持っている。子ども達は学校や地域班、青少年育成行事などそれぞれにコミュニティがある。中間世代も持っている。お母さん達は、子どもの関係からつきあいから始まり、子どもが手を離れても近所のお母さん同士のつきあいがある。そうした中で、高齢者だけの所帯になった時、どのように地域や町会・自治会と関わるかが一番の課題である。また、そうした全く地域と関わりの無い人達をいかに掘り起こすかが課題だと思う。

座長

- ・今のご意見は本日の課題にもつながっていくと思う。

R委員

- ・子どもたちは大人を見ている。全く挨拶しなかった子ども達でも、先生方が率先して挨拶を始めたら、子どもも地域の人に挨拶するようになったということが実体験としてある。
- ・一つ学校の良い話を紹介したい。ある学校の校長先生が、学校の敷地に近い道の一定エリアを挨拶通りと名づけ、その道では誰が来ようと子どもも先生も挨拶をしようと決め、挨拶をするようになったという話である。小さいことだが、大人たちが子どもに働きかけをすると伝わっていく。
- ・地域との関わりが無い高齢者に対する対策の緊急度は高いと思うが、そうしたことに加え、子どもたちに長い目で地域との関わりを意識させていくことも大切だと思う。

座長

- ・他に意見はあるか。

H委員

- ・どこの学校のPTAも苦慮していることは、共働き世帯が増えていることである。両親が普段から地域の関わりが無いため、子どもも地域との関わりが無くなる傾向が伺える。仕事があるのでPTAへの参加は難しいし、参加する気にもなれないと思う。厳しい見方ではあるが、区の子育て施策の中では、今後も保育園を増やす方向があり、それに比例して共働き世帯が増えることが予想される。こうした流れは、国全体が同じであるが、地域コミュニティの崩壊につながる一面もあると思う。

G委員

- ・担い手の中に高齢者が入っていない。支えられる側として入っている。元気な高齢者を担い手として上手に使う方法を考えることが大切である。

座長

- ・高齢者の方が地域で活躍する場が無いということであれば、提言の中に入れていくことは必要だと思う。現状として、高齢者の方や老人会の方が地域で活躍する際に支障となることはあるか。

G委員

- ・特別支障となることない。ただ、高齢者が交差点などで子ども達の見守り活動を行っているが、学校の方から高齢者が道路で旗を持って立っていると危ないので、保護者と交代させられてしまうところもある。高齢者ということだけで判断するのは無く、個々に判断して担い手として活用できれば良いと思う。

座長

- ・中間世代の親の共働きが増えているが、働いていても子育てをしなくてはならないということが基本だと思う。

- ・学校によっては働いているからPTAなどに来なくて良いというところもあるし、働いていても来るのが前提の学校もあると思う。これは地域のことをどこまで大切にするか、地域ごとに培ってきた伝統などがあり、地域によって違っている。
- ・元気な高齢者がもっと活躍できるはずだという話については、その通りだと思う。今まで議論が無かった話だが、どのようにすればもっと活用できるのか、また、そうした際の課題は何なのか、ご意見を伺いたい。

#### D委員

- ・青少年育成地区委員会で活動していて感じることであるが、今の子どもたちの保護者である30歳代・40歳代と子育てを終えた50歳代・60歳代の考え方は随分違う。生活様式も違う。また、子どもたちの世代も意識が違う。危惧しているのは、今の30歳代・40歳代の人々が20年後に将来どうなっていて欲しいのか、そこにコミュニティが発揮されていけば良いが、今のままでは非常に心配である。会議に出ない、関心がない、文句だけ言う方が非常に多い。いろいろ問題はあるが、この方たちが20年後にどうなっているのかをある程度想定してコミュニティを作っていくと心配である。今の子どもたちには、将来練馬に戻ってきて欲しいと思う。そうするためには、どうやってコミュニティを作っていくのが問題である。参加しない人を追いかけても無理だと思う。30歳代・40歳代の方たちをどうしていくのかということが、最も気になっている。

#### 座長

- ・これまでのご意見を伺う中で、前書きにもう一つ別の視点が必要だと感じた。そもそも地域コミュニティがなぜ必要なのか、なぜ地域の基本的なつながりが大事なのか、なぜ維持していく必要があるのかということについて、書き込む必要があると思う。地域の基本的なつながりの大事さについて、世代による違いがあるということが大きな問題であって、大雑把に言えば、若い世代は地域のつながりをあまり大事にしなくなってきており、本当にそれで良いのかということ。また、その若い世代が20年後に今のままで大丈夫なのか、そうしたことも考えていく時期にきているということだと思う。
- ・そうしたことも含めて、あまり地域に関わらない、関わりたくても関われない、そもそも関わる気がない、大事さがわからないという人に、どのように働きかけていくかという話に議論を移していきたい。
- ・まずは事務局より、関連する資料として前回懇談会の傍聴者からの意見の紹介をお願いする。

#### 事務局

- 別紙により、前回懇談会の傍聴者のご意見について説明

#### 座長

- ・前回の傍聴者からのご意見も踏まえ、まずは地域と関わりたいけど関われない人、これから参加したいという人など、地域に関わる人をこれから増やしたいという時に、どのような方策が考えられるかご意見を伺いたい。

#### P委員

- ・今まで町会に入っていなかったが、先日、町会に加入した。区に電話して町会長を紹介してもらい、町会長に連絡を取り地区の会長を紹介してもらい会費を払って加入した。するとすぐに回覧板が回ってきた。その中に防災訓練の案内があったので、早速参加した。防災訓練の仕組みは知っていたが、実際に参加することで、必要な情報をしっかりと確認できた。
- ・こうしたことから、同じマンションに住む人たちにも町会への加入を勧めたほうが良いと思うようになった。私の場合、町会に加入する仕組みも知っていたので、区に相談をした次第であるが、他のマンション住民の方に聞いてみると、町会へ加入する方法がわからないという話だった。
- ・団体の様々な情報を区民が手に入れる仕組みは、区が用意していると思う。例えば、町会・自治会のパンフレットでも、区役所に行けば置いてある。しかし、区民が興味なければそのパンフレットに目が行かない。私は地域の仲間と商店会の空き店舗を借りて活動している。その店舗のガラス窓に様々なチラシをたくさん貼っている。そのチラシを通りがかりの人がかなり見てくれる。それも見ている人自身が関心を持っているからだと思う。
- ・私が課題と感じているのは、関心のない人はどこにもコンタクトしてこないということである。学校の場合は子どもの行事があるが、高齢者の場合は自分が興味ないと参加しようと思わない。地域の様々な団体は、高齢者に対してどのようにPRすれば良いか悩んでいると思う。私達の団体も苦労している。ただ、関心のない人にどのように関心を持たせるかについては、コミュニティの話だけではなく、どのように情報を伝えることができるのか、みんなの知恵を集めて試行錯誤していくしかないと思う。一度関心を持ってもらえれば、あとはそれぞれの団体が使命感をもって動くということだと思う。

#### 座長

- ・関心のない人へどのように働きかけるかというのは大きな課題だと思う。

#### K委員

- ・NPOはNPOで情報発信をしており、ボランティア団体はボランティア団体で情報発信をしている。町会・自治会や学校、PTAなどの情報も含め、一つのところにアクセスすれば、ある程度の情報を知ることができる市民活動についてのタウンページのような器があれば良いと思う。
- ・こうした器があることで関心のないことも目に入ってくるという効果もあると思う。冊子なのか、ホームページなのかは分からないが、知らない人も簡単にアクセスできるような何かがあると良い。
- ・また、今の若い世代は携帯電話のメールが情報取得のツールになっているので、例えば、メールで自分のほしい情報が取れるようなサービスをすることも考えられると思う。



#### G委員

- ・区のホームページでも、いろいろと情報を発信している。老人クラブについてもかなり取り上げてもらっているように思う。また、区報に情報が載ると問合せも増える。区も努力はしていると思う。
- ・全く関心がない人については、近くの人や友人が何かの行事がある時などに誘ってあげることが一番だと思う。団体も大切だが、人と人とのつながり、一人ひとりのつながりが大切だと思う。

#### K委員

- ・情報を一つにまとめることにより、自分の欲しい情報だけでなく、関心のない情報に接する機会にもなると思う。

#### G委員

- ・関心のない人に対しては、日常的な会話の中から、その人が何に関心を持っているのかを確認し、行事などを紹介していくしかないのではないか。

#### 座長

- ・情報提供や情報集約の場をつくるのは区が動かないと難しい部分があると思う。単独の団体で取り組むのは難しい。区の政策としてやってもらう必要がある。だからと言って、区だけに任せていても良いものがないことがあるので、個々の団体が集まってプランを作り、それを区が責任を持って実施するという体制を整備することが大事なのではないか。様々な団体が情報を発信する場面で、一堂に会すること自体に効果があると思う。町会・自治会など情報発信を希望する団体が、ある窓口に集まり、同じような工夫の中で発信していく、その交流そのものが各団体の情報の共有にもなっていくと思う。
- ・例えば、町会の回覧で回すだけでは一部になってしまう。そこは、区の公的な施設なり、情報ツールを使って提供しないとなかなか定着しないと思う。情報を集めなければいけない、発信しないといけないということは良く言われるが、大事なことはきちっと公的な形で整理することと、中身を公的機関が作るのではなく、多様な団体が知恵を出し、関わられるような形にしておくことが大事だと思う。
- ・情報だけあってもそこに人の関わりがないと広がっていかないこともある。そこは個々の団体が努力する部分でもあると思う。公的には機会を作っていくことが大事であって、つながったら個々の団体が努力するしかないと思う。
- ・もう一つ集中的に議論して欲しいこととして、若い世代の方、働いている方にどのように情報を発信していくかということがある。すぐに地域に参加するなどの効果が出なかったとしても、地域の活動などを伝えていくことは重要であり、それを見ていれば、自分がその立場になった時にスムーズに関わることができると思う。そうした際に、今の若い世代の人達が接し易い情報として、インターネットやホームページなどのメディアを活用するという話も良く言われているが、そうしたことについてはどのように思っているか伺いたい。

#### M委員

- ・各町会・自治会でホームページを作っているところはどのくらいあるのか。

#### 事務局

- ・区が把握している範囲では、町会・自治会単独でホームページを立ち上げているのが 11 団体、区が各町会・自治会から情報を集めて、まとめて発信しているのが 60 団体くらいであり、徐々に増えている。町会自治会は全部で 252 団体なので、単独で作成している団体は、5 %に満たない割合である。

#### M委員

- ・私達の町会でもホームページを作ることについて話をしたが、役員の皆さんは考えていないということだった。個人的に町会への加入を勧めると、「昼間は家にいないから」などの返事が返ってくる。町会イコール回覧板というイメージが強くある。町会でホームページを作ることについて協議をした際、ホームページを作成しても誰が見るのかという話になった。結局、町会は今の 70 歳くらいの人しかターゲットとして考えていない。あと 20 年後を考えたら、みんなパソコンを使っている。どこかの時点で区が町会・自治会のホームページ化に対して、助成金を出すことなどを考える必要があると思う。駅で新聞を買っている人が多くなったため、区報も目にしない人が増えている。もっと情報発信について考える必要がある。

#### 座長

- ・メルマガなどは登録して読むものである。例えば、ある町会・自治会の範囲の人に登録してもらえれば、一斉に情報を流すこともできる。メルマガを受けることだけなら、抵抗がないという人もいると思うのでもっと活用したほうが良いかもしれない。自分で登録することで情報が取れる手軽な媒体について、各団体でも工夫は必要であるが、何らかの支援の場もあったほうが良いということもある。いろいろな手法があり、様々な問題も関係してくると思うが、多角的に検討する必要がある。

#### D委員

- ・回覧板は 20 世紀の産物でもあると思う。時代に合った受け皿が必要だと思う。練馬区 70 万人の中で町会を基本とした組織と人、人と物がなければ難しいと思う。色々な人が関わることでピラミッドができると思う。クラウドの人はピラミッドができない、そうした人は区民の半分くらいいるかもしれない。残りの半分の区民で核となるものを先につくり、受け皿をつくるのが早いと思っている。何年も掛かるかもしれないが、やらないとできない。今の 30 歳代・40 歳代の人には町会・自治会に加入しない、PTAにも参加しない、家からも出て来ない、そうした状況なので、核となるもの、受け皿を早くつくって欲しいと思う。

#### K委員

- ・若い人たちはメールだけ登録して情報を取るくらいはできると思う。彼らは参加するまでは行かないが、自分に都合の良い情報は受け取りたいと考えている。ただ、そうした

情報を上手く流すことを考えないと、何でもかんでも情報が来ても困ってしまう。様々な活動団体があるので、様々な切り口を考えて、欲しい人に必要な情報が流れるような仕組みが必要であると思う。また、ホームページだけあっても情報に行き着かない、メールがきっかけになってホームページに行き着く時代だと思う。

P委員

- ・区が作っている各町会・自治会のホームページを見たが、情報量など含めて見ても見なくてもあまり変わらないという印象だった。ホームページを考えるなら工夫が必要であり、定期的な更新や具体的な情報がないと難しいと思う。インターネットに無い情報が回覧板を見ると色々ある。本当に必要な情報が掲載されているホームページを維持することは労力のいることである。

E委員

- ・関心のある人は自分で動くと思うが、関心のない人は、いくらホームページを充実しても、情報を発信しても、見ない人は見ないと思う。個人的には、関心のない人がどのように地域コミュニティに関わってもらえるかを考えることが大事だと思う。

H委員

- ・個人的な感想として、情報はすでに溢れているので今以上に必要ないように思う。ホームページが無くても電話で問い合わせをすれば、区は教えてくれる。電子化が進むことで生身の人間同士の対話が衰えていくという危機感がある。インターネットやメールでネットワークは広がると思うが、生のコミュニケーションを取る力は弱まると思う。電話をしたり、誰かに尋ねたりすることは勇気のいることだが、その勇気を持たないとコミュニティは活性化しないと思う。この懇談会の場合では、向こう三軒両隣の話と団体同士の連携の話が並行して議論されている。しかし、この二つは違う性質の議論ではないかという気がしている。コミュニティを活性化するなら、通り一本の近所が繋がらないと本当の意味では活性化しないのではないか。
- ・防災のことは非常に良いきっかけになっている。例えば、町会の班ごとに全員参加のバケツリレーをやってみる。バケツリレーをやることにより、顔を合わせるきっかけとなる。それをすることで関心のない人がいることを確認できる。近所の人がそうした関心のない人がいるということを知っていること自体が大事である。

座長

- ・今のご発言は、色々な活動のベースとなるような近隣のことをどのように考え、どう大切に、どう再生していくかという話と、実際に活発に活動している団体同士どのように繋げていくかという話は、別の話であり、それぞれに課題があるため、区別して考えた方がよいということだと思う。
- ・近隣関係のつながりの再生と団体同士の連携を考える際に、それぞれによってメディアの使い方にも違いがあり、コーディネーターの役割も、どちらに重きを置くかという話になると思う。コーディネーターは、多分そんなに多く置けるとは思えないので、団体

同士の連携など、活動している人たちをつなぐことが基本となるのではないかと思う。近隣同士のつながりをつくることに対してコーディネーターを置くという話には成り難いと思う。この部分は提言が必要かもしれない。

- ・また、以前の懇談会で話題になったが、高齢になってあまり外に出て来ないような方へどのようにアプローチするか、情報を流して、受け取って入ってくれば良いという段階ですらない人たちをどうするのかという課題がもう一つある。つまり、一つ目は活動している人をどうしていくかということ、二つ目は活動を知るためにどうしていくかということ、三つ目は活動しない人、地域に出て来ない人に対しても地域のつながりは大事だから、何らかの把握が必要ということだと思う。このような課題に関心を持ち、そうした活動を中心としている団体を育てたり、実際にいる人材や団体に活躍の場を提供するようなことが必要かもしれない。社会福祉協議会などはその辺りをどのように考えているか。

#### L委員

- ・本日の資料の中で、NPOやボランティア団体が地域を意識していないという内容で書かれているが、私自身が議論の中で強調しすぎてしまったようにも思う。NPOやボランティア団体でも地域のつながりとか支え合いとかを意識している。例えば、たまり場や配食の活動など、地域と関わった活動をしながら見守りをしている団体など、多様な視点でその地域の状況に合わせて柔軟に活動をしている。必ずしも地域に根ざしていないということではないと思う。

#### 座長

- ・ある地域でそのような活動をする団体が生まれても、他の地域へ広がっていかないというのが現状だと思う。ただ、それぞれの地域で近隣関係のことに着目し、人と人をつなげていく活動や意識を持った人たちに光を当てていくようなことも必要かもしれない。そうした団体は、非常にローカルなところで活動している場合も多く、支援が入らないということがある。そうした近隣関係をつなげていくような団体を見出し、支援するような仕組みも別立てで必要だと思う。

#### N委員

- ・私達の団体ではたまり場づくりを行っているが、団体の中でも課題となっているのが、こちらから声掛けをしても、このような場所にも全く寄って来ない方である。活動の中では、近隣施設や団体との交流などもしているが、どこにも引っかからない方が沢山いる。民生委員の高齢者の一人世帯調査や区の様々な見守りサービスなど、全てを断ってしまう方もいる。また、子育て関係でも、共働きの方は地域で色々な活動をしていても参加して来ないし、学校の活動にも出て来ない。どの団体も工夫をしながら活動していると思うが、課題は一緒のように思う。

#### 座長

- ・民生委員の活動状況について伺いたい。地域のことを民生委員でも把握できない状況な

のか。それとも、昔ほどきめ細かく地域を回るとは難しくなっているのか。

F 委員

- ・ 2、3年前から一人暮らしや高齢者の単身世帯がすごく増え、見回りを希望する人が多かった。しかし、今年度一人暮らし高齢者の調査を行った結果、3年前の調査に比べ、何かあった時に情報が欲しいとか、見回って欲しいという方が半分くらいになった。私の家はもう回って来てくれなくても結構という方、お世話もしたくないし、お世話をされたくもないという方が増えている。
- ・ また、一人暮らしの方は留守のことが多く、なかなか会うことができない。資料を直接手渡すことも非常に困難な状況である。

G 委員

- ・ 高齢者を年齢で判断することも難しい。86歳の方でも週に2回ゴルフに行っている方や、毎日渋谷まで通っている92歳の方など、元気な方も沢山いる。その反面、60歳・70歳代でお世話になりたいという高齢者もいる。高齢者といっても一概には言えない状況だと思う。

F 委員

- ・ 高齢者の方でも自宅で脳トレーニングなどを行っている人もいる。高齢者のイメージもだいぶ変わってきていると思う。

P 委員

- ・ 行政のサービスが良すぎるように思う。例えば、区では見守り訪問サービスを行っているが、本来は近所の方が見守りを行えば良いようなことを、全く違う地域の人が週に一度訪問している。見守り訪問サービスや介護保険制度に頼っている人は、近所に頼らなくても独立してある程度のことのできてしまう。そうしたサービスなどがあり、独立してもやっていける雰囲気があるから、お隣への声掛けができない人がいる。

F 委員

- ・ 老人クラブはそうした見守りもやっている。一人暮らし高齢者の方には、会員でなくても声掛けを行っている。

C 委員

- ・ どの程度から高齢者かという基準は分らないが、町会・自治会などは、ある程度の年になったら次の人に役を引き継がないといけないと思う。高齢者が元気だからといって、何でも頼むと全部やろうとしてしまう。若い人に引き継いで、高齢者は相談役などで力を貸していくことが大事である。

座長

- ・ 本日は、様々な視点でご意見をいただいた。次回に向けて、私と事務局で本日の意見をまとめさせていただく。
- ・ 本日の議論では、地域の基本的なつながりは皆にとって必要であるが、必要がないと考えている人も増えているという現状もあり、その中でも、自分で色々なことを解決でき、

必要に応じて地域に頼ることができる人は多分心配ないが、そうではない人が、助けが必要だったり、助けを必要とされたりした際に、つながることができる条件をつくっておく必要があるということだと思う。それが、地域の基本的なつながりを維持することだと思う。皆が知り合いで、仲良しであるということではなく、地域にはこのような人がいて、今は自分で色々なことをやっているのに気にする必要はないが、いつ何が起きるか分からないから一応は知っておくようなつながりだと思う。昔のように皆が知り合っているという状態ではなく、お互いが知っていて、何かあった時には助けすることもできるし、助けを呼ぶことができるという基本的なつながりを維持していく状況を狭い近隣の中でつくっていく必要があるということである。それは、団体の活動や連携のこととは違うレベルでの活性化の話であり、生活の基盤として重要であるということだと思う。

- ・ 今回も活発なご議論をいただいた。事務局から今後の予定も含めて連絡をお願いします。  
事務局
- ・ 当初予定では、10月に提言をまとめる予定であったが、もう1回懇談会を開催させていただきたい。
- 日程調整の結果、次回懇談会は11月10日(木)で決定  
座長
- ・ 本日のご意見も踏まえて、最終的に取りまとめていくが、もう少し整理が必要なところもある。次回改めて提言の骨子をご提案させていただく。  
D委員
- ・ 懇談会で1年間議論してきたので何か小さなトライアルができると良い。コミュニティとは何をするのか良くわからない。  
座長
- ・ 事務局としては提言をまとめた後に何か考えているのか。  
事務局
- ・ 提言をいただいた後、提言内容を踏まえ、区として区内検討委員会で具体的なプログラムを作成し、区民に周知していく予定である。なお、区民への周知の前段で当懇談会の委員の皆さまに報告し、その後、区民への説明会に入っていく予定である。説明会で委員の皆さまに、どのように関わっていただくかは検討したい。  
座長
- ・ 説明会に入る前の段階で、懇談会の委員だけでなく、区民の方々も参加できるシンポジウムのようなことができると良い。懇談会の提言から区のプログラムがどのような形になったのか、そうした議論も含めて区民と一緒に考えてもらえると良い。単に区が考えたものを周知するよりは、区民に今後何をすれば良いのかを考えるきっかけになるような機会があると良いと思う。
- ・ 以上で第6回懇談会は終了する。